

■伊古田純道 医学者・政治思想家。日本初の帝王切開後、医療の立場から維新前後に政治批判活動。

いこたじゅんどう

藤栗毛始・・・1802＝ 武蔵国秩父郡伊古田村で、名主治太夫の長男に生まれる。幼名富次郎。

厳格な家風で、名主職を相続することを期待され、

ゴロアツシ拿捕 1811＝9歳：

幼時から学を好み、長じて、医者になることを志すも、許されず、

水野忠成老中1818＝16歳：

ついに祖父の助力得て、

・・・・・・1820＝18歳：

蝦夷地直轄終1821＝19歳：比企郡番匠村の産科医小室元兆について、蘭学・医学を学び、

一旦帰郷して開業、

秩父郡吾野村で代々医業する岡部家の娘と結婚し、

名主職もつとめた後、

シボク追放・1829＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝35歳：*この頃、江戸に出て、佐藤泰然に入門したらしい。

適塾オープン・1838＝36歳：

江戸遊学中、藤田東湖・大橋訥庵らと交流して、尊王攘夷思想の影響を受け、

江戸の尾張藩医の話があるも、またも父に反対されて、帰郷。伊古田家継ぐも確執絶えず、

ついに出奔し、忍藩秩父領の行政中心で秩父絹の流通拠点でもある大宮郷で開業するが、漢方医に独占されていて、患者も訪れない日々が続くうち、

阿部正弘首座1845＝43歳：

・・・・・・1847＝45歳：

万次郎帰国・1852＝50歳：吾野村の甥岡部均平から、農民の妻が陣痛起こすも対策施せず、助けて欲しいと連絡受けて急行、均平とともに、“捷徑術”として紹介されながら未開だった*帝王切開手術を初めて実施して成功、その感動を手記にして公開し、西洋医学への信頼を訴える。

ペリー来航・1853＝51歳：

松下村塾・・・1856＝54歳：

安政の大獄・1859＝57歳：医者継がせるべく佐藤泰然の門下に入れていた三男好道が夭折してしまう。

桜田門外変・1860＝58歳：

薩摩藩士密航1865＝63歳：

薩長同盟・・・1866＝64歳：秩父郡周りに、近世最大の一揆といわれる*“武州世直し一揆”が起こるや、その根源が支配者の悪政にあることを指摘する「賊民略記」を一気に書き上げ、政治的・社会的発言を開始。

明治維新・・・1868＝66歳：討幕軍の東上に対応するように、武州周辺に世直し求める打毀しが多発するなか、変名で“王政復古を賛美する「新政或問」を執筆し、維新政府の成立とともに、諸政策を上表。

初の日刊新聞1870＝68歳：岩鼻県種痘掛に任じられるも、結局は民衆に支払いを強制するもので、意に反し、

廃藩置県・・・1871＝69歳：故郷を捨てて、三男の遺児を連れて、友人武井三岳のいる上州藤岡に赴き、医を開業。すでに名声高く患者が列をなすなか、

明治6年政変 1873＝71歳：武井とともに、寺に藤岡小学校を開いて、「志学大意」を書く。

佐賀の乱・・・1874＝72歳：

その後も、医学徒の集まり「青年社」に出て講演し、漢詩に託して、“新政府を批判し、

・・・・・・1880＝78歳：上毛有志会が国会開設の決議をすると、この政社による自由民権運動に参加するなどして、

明治14年政変1881＝79歳：

岩倉具視没・1883＝81歳：

帝国大学始・1886＝84歳：没した。